

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 202

2008年

5～6月号

行 事 案 内

5月手賀沼探鳥会とカウント

「Enjoy 手賀沼 第19回バードワーク手賀沼探鳥会」として5月11日(日)開催します。詳細はP.2「Enjoy 手賀沼」をご覧ください。

6月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 6月8日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 夏鳥の季節となり、カッコウやホトトギスの声も聞こえてきます。手賀沼の水鳥は子育てをはじめ、葦原ではオオヨシキリがギョギョシと大声で囀り、水田ではチュウサギ、アマサギが採餌と、この時期ならではの面白さがあり、昨年はタマシギの親子に出会えました。そろそろ暑さ対策もお忘れなく。

解 散 正午
担 当 桑森、小林(寿)、北原、佐々木、松田、野口(紀)

筑波山探鳥会

期 日 5月3日(土) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前7時
案 内 恒例のゴールデンウィーク探鳥会は日本百名山の一つ筑波山です。

本隊(健脚向き)は筑波山の裏側から探鳥しながら御幸ヶ原に登ります。別隊(一般向き)は筑波山神社で探鳥した後、ケーブルカーで御幸ヶ原に向かい本隊と合流します。その後、男体山を周遊する自然研究路を一周して裏側から下山します。ソウシチョウ、オオルリ、コルリ、ツツドリの美声と姿に出会えるでしょう。

持 物 観察用具、雨具、昼食(途中購入可)
交 通 自家用車分乗です。同乗者は一人1,500円を運転者にお渡し下さい。なお、申込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡下さい。

戸隠高原探鳥会

日 時 5月24日(土)～25日(日)
集 合 我孫子駅北口 午前8時
交 通 今井観光バス
宿 舎 森の宿「メルヘン」
長野県上水内郡戸隠村越水
Tel: 026-254-2081
費 用 20,000円を予定
(2日間の昼食は各自負担)
案 内 戸隠の夏鳥に逢いたくて8年ぶりに訪れます。ノジコ、コルリ、クロジ、キビタキ、オオルリ、クロツグミ、カッコウ、サンショウクイ、ア

カショウピン等が期待できます。また、現地の森の学習館「もりのまなびや」主催の探鳥会にも参加し講習を受ける予定です。

持物 観察用具、雨具
申込 猪爪敏夫まで（定員 27 名）
Tel/Fax：04-7186-5075
担当 猪爪、鈴木（静）、西嶋（昭）

運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車提供可能な方はその旨をご連絡下さい。

申込 北原建郎まで
Tel：04 - 7183 - 4683
担当 北原、小玉

飯岡・笹川探鳥会

期日 6月22日（日） 雨天中止
集合 我孫子駅北口 午前8時
持参 観察用具、弁当・飲物、雨具
（道の駅多古にはいろいろな種類のお弁当が沢山あります）
案内 笹川周辺ではオオセッカ、コジュリン、コヨシキリ、オオヨシキリなど葦原の鳥たちを身近に見ることができます。そしてアジサシが乱舞する飯岡の砂浜を探鳥します。
交通 自家用車分乗です。一人 1,500 円を

5 月幹事会開催のお知らせ

日時 5月11日（日） 13:30～16:30
場所 近隣センター こもれび 調理室
議題
1. 20 年度下期行事予定
2. 会報 203 号の掲載記事について
3. 報告事項
4. その他（議題のある場合は事務局まで連絡ください。）

【Enjoy 手賀沼 第 19 回バードウィーク手賀沼探鳥会】

5 月 10 日～16 日はバードウィークです。恒例「のバードウィーク手賀沼探鳥会」を実施します。（財）山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館と当会が共催するイベントで、同日、手賀沼親水広場で開催される「Enjoy 手賀沼！」（Enjoy 手賀沼実行委員会主催）に併せた行事です。探鳥会には約 100 名の市民の参加が見込まれ、当会は探鳥会の実施面を担当しますので、人手が必要になります。多数会員のお手伝いをお願いします。

期日 平成18年5月11日（日） 雨天中止
集合 手賀沼親水広場 芝生 午前8時30分
担当 全幹事
案内 6 班編成で、順次出発、ふれあい道路を東進し、高野山新田の信号の先で右折、遊歩道へ入り、滝下広場から遊歩道を戻るコースとします。班毎に鳥合わせして解散です。原則 12 時終了の予定です。5 月の定例探鳥会はこのバードウィーク手賀沼探鳥会に替えます。

雨天の場合は、我孫子市鳥の博物館見学会（入場無料）を行います。館内の案内、説明等を会員が手伝います。確認は 7 時 30 分以降「鳥博」（04-7185-2212）まで。

行事報告

2月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2008年2月10日 9:00~12:00

晴、風弱、気温8

<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ミコアイサ、ミサゴ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計40種 番外 カワラバト
 <探鳥班> 村瀬和則、諏訪哲夫、大久保陸夫、間野吉幸、類地佑子、松田幸保、松本勝英、片桐邦夫、小林寿美子、常盤孝義、渡辺成、浅井久、栗田励、池田日出男、富田伊基子、鈴木幸子、肥後邦彦、西巻実、久野準子、吉川洋、吉川民子、殿谷和敬、殿谷道子、大塚利行、大塚雅子、石渡成紀、田丸喜昭、佐々木隆、西嶋昭生、西嶋みどり、小玉文夫、市村偕子、岩田孝之 (担当) 北原建郎
 参加者 34名

<カウント班> 木村稔、桑森亮、染谷迪夫、田中功

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	9	7	16
ハシロカイツブリ	7	2	9
カンムリカイツブリ	4	9	13
カワウ	10	37	47
ゴイサギ	0	2	2
コサギ	2	2	4
アオサギ	4	2	6
コブハクチョウ	3	3	6
マガモ	2	73	75
カルガモ	79	130	209

コガモ	27	13	40
オカヨシガモ	12	0	12
オナガガモ	1	14	15
ハシビロ	0	7	7
ミコアイサ	1	7	8
バン	1	0	1
オオバン	25	22	47
タヒバリ	0	1	1
ユリカモメ	27	71	98
セグロカモメ	2	3	5
合計	216	405	621

<ビオトープ班> 猪爪敏夫、鈴木静治、谷山晴男

全般：残雪あり、風冷たい。水鳥は沼側に多い。小鳥はビオトープに多し。

水田：ほとんどの水田(乾田)は耕されている。

ビオトープ：きれいに草刈がされている。沢山のもぐらの穴の盛り土あり。

通行人：散歩、ウォーキング、サイクリングする人 40名位。

3月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2008年3月9日 9:00~11:50

晴れ、弱風、気温10

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ミサゴ、ノスリ、チュウヒ、キジ、クイナ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

計 43 種 番外 カワラバト
 <探鳥班>村瀬和則、間野吉幸、吉田隆行、
 諏訪哲夫、栗田励、田丸喜昭、下村蓉子、田
 中悟、池田日出男、野口隆也、吉川洋、吉川
 民子、北原建郎、肥後邦彦、山田哲生、渡辺
 マイク、大塚利行、大塚雅子、久野準子、古
 出洋子、常磐孝義、大久保睦夫、中野久夫、
 類地佑子、松田幸保、西巻実、天野睦子、小
 玉文夫、武藤康之、市村偕子、六角昭男、榎
 本右、橋本清、片桐邦夫、玉井修一郎、石渡
 成紀、佐藤弘美、宮下三禮、林尚孝、松下勝
 子、小林寿美子、植田啓介（担当）佐々木
 隆 参加者 43 名

<カウント班>木村稔、桑森亮、染谷通夫、
 田中功、

調査種	上沼	下沼	合計
カイツリ	19	8	27
カムリカイツリ	1	3	4
カワ	8	26	34
ダツギ	1	0	1
コサギ	4	0	4
アオサギ	5	0	5
コバハチヨウ	2	0	2
マガモ	1	24	25
カルガモ	46	11	57
コガモ	37	16	53
オカヨガモ	12	0	12
ヒトリガモ	0	16	16
ホシヅメ	0	4	4
ミコアイサ	0	3	3
ハシ	0	2	2
オオハシ	50	19	69
ユリカモ	43	22	65
セグロカモ	1	1	2
合計	230	155	385

<ピオトープ班>猪爪敏夫、鈴木静治、谷山
 晴男、川田光男

全般：日差し柔らかく、湖面穏やか、ウグイ
 スの囀り。桜の蕾やや膨らみ、ネコヤ
 ナギの花咲く。

水田：乾田が耕されている。

ピオトープ：小鳥・水鳥の種類多く、ネコヤナ
 ギの花にベニマシコ、落羽松の枝にハ

シボソガラス巢作り。
 通行人：自転車、ジョギング、散歩、ボイス
 カウト、中学生のグループ多い。

清里・野辺山探鳥会

5月24日、25日

美しき雪景色の探鳥会

山本貞江

長野は夕方より吹雪とのテレビを横目で
 睨み“今まで我孫子野鳥守の会が悪天候だっ
 たことはないの知らないな”と午前 8 時に
 我孫子を出発する。高井戸より中央高速道に
 乗り、三鷹、石川 PA とまずは順調に進む。
 11 時、双葉 SA で少し早い昼食をとる。薄
 曇りなれど雨や雪の気配はない。12 時に双
 葉 SA を出発、目的地に向かう。

みぞれ！が降り始める。今まで降っていな
 かったのに 15 分の差でこの天候の変化に驚
 かされる。トイレ休憩に寄った道の駅でも
 “こんな事ないんですけれどねー”との事。
 皆、不安気な様子。横なぐりのみぞれ！！そ
 れが目的地に近づくにつれて辺りは白くな
 り、寒くなり、雪は降り続く。午後 1 時、
 ねむの木ペンションに到着。雪は上ってい
 た！！そこは、すっかり鳥の世界。すべての
 の清里・野辺山のトリが集まっているとお
 話、成る程・・・・

食堂の前のテニスコート程の庭にある
 木々、点々と配置されている餌台、そこにイ
 カル・シメ・アトリ・ニュウナイスズメ等と、
 ごちゃごちゃと、まるでトリのジュータン
 の様に群れている。それが一斉にサーツと木
 の上に移り一休み、そして、またワーツと地面
 に降り立ち餌を啄ばむ、これの繰り返し。啞
 然となる人・歓声をあげる人・早速シャッ
 ターを切る人・・・・

ひと落ち着きして午後 2 時 30 分、目的
 のフクロウウォッチングに小型バスで出発す
 る。この時には雪がしんと降り始めてい
 た。現地に着くと、家もなく、人影もない、
 真っ白な大地と里山の木々のみ。静寂の雪原
 に降りつづける雪を眺めながらフクロウを
 待っていると頭の中に、ホーツと、フクロ
 ウの姿が浮かんでくる。ロマンチックなロケ

ーションです。現実には、めったに体験できない、美しい雪景色。忘れた恋を思い出した人も・・・実物のフクロウは現れませんでしたけれど、楽しい、珍しい探鳥会でした。4時30分に宿への帰路につく。途中、雪の中にベニマシコを一羽、期待していなかったのが皆いっぺんに元気づく。

翌日早朝、探鳥会でフクロウを求め、再チャレンジ。しかしフクロウは出なかった。朝食をはさみ庭のトリを見る。アオゲラ・アカゲラ・コゲラ等・・・アオゲラを間近に見ることが出来、とても、とても、嬉しかった。

午前9時30分、山中湖に向かうもレンジャクの姿はない。未だ来ていないとの情報、そこへ中西さんより「相模湖近くの城山湖にハギマシコが30羽程いる」との情報が提供される。諏訪さん、鈴木さん、中西さん、ドライバーの森田さんが協議の結果、城山湖に向かうことになる。皆、大喜び。ハギマシコの現れることを祈りながら山中湖を後にする。

午後1時、城山湖に着く。皆、初めての土地の様子。ハギマシコまでは少し遠かったけれど、いた!! 初見の人も多く、大喜び。

午後2時30分、ハギマシコのお陰で、みんな満足し、我孫子に向け城山湖を後にする。中西さん、有難うございました。皆様を代表してお礼申し上げます。

幹事のお二方、有難うございました。雪に彩られた、楽しい探鳥会でした。

【幹事報告】

今年の冬、特に2月以降の清里・野辺山は積雪が多く、枯れ草の穂が雪に埋まり、探鳥予定の野辺山高原はスキー場のような雪原であった。また清里湖は全面結氷した。このため、鳥の餌が極端に少なくなり、清里のむくの木ペンションの庭の餌場には日中何時も約20種類・数百羽の鳥が集まる反面、雪原・唐松林のフクロウ(晴れた下見の2/14夕方には2羽?、3回見られた)は少なく、またマシコ類、カモ類がほとんどいない状態であった。そこで、レンジャク・水鳥ねらいで山中湖(下見の2/15には150羽のカワアイサの群れ・ホオジロガモ・ミコアイサ等が見られた)を、更に新しいハギマシコの情報が得られたのでハギマシコねらいで城山湖

を、今回の探鳥地として予定しました清里・野辺山に追加しました。

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、コブハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、キジ、オオバン、キジバト、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒロドリ、カヤクグリ、シロハラ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アトリ、カワラヒワ、ハギマシコ、ベニマシコ、ウソ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計41種 番外 カワラバト
<参加者> 間野吉幸、宮下三禮、小玉文夫、猪爪敏夫、桑森亮、大久保陸男、山本貞江、古賀嗣朗、松本勝英、染谷廸夫、野口隆也、中西榮子、村上稔、吉田隆行、石渡成紀、中野久夫、野口幸子、西巻実(担当幹事) 諏訪哲夫、鈴木静治 参加者20名

北本自然公園探鳥会

3月16日

ふっくらとしたシメに感激

市村偕子

入会して本日が三回目の探鳥会。持参したものは観劇用の双眼鏡、薄いカイドブック、そして忘れてはならないお弁当をシッカリ持ったの参加。決められた車に同乗させて頂き目的地に向かって16号線を快調に走る。駐車場へは一番乗りとなる。担当の方からの説明を受け、ふれあい橋を渡り園内へとむかう。湿地帯の中、木道を歩き左側にはエドヒガンザクラ(天然記念物)の見事な枝振りには驚かされます。満開の時の素晴らしさをイメージする。その先で「シメ」と会員の方が声をかけて下さり望遠鏡で観察。ふっくらとした体、太い嘴(くちばし)、淡い色した羽毛、初めての出会いに、お「シメ」様に感激する。

学習センターでは、指導員により机上講習を受け、子供の時はこの園内の自然が普通であったのに今は維持していくのが大変で頭の中が・・・ピオトープ。

それから園内を歩き、会員の方々は多くさんの鳥を急ぐに見つけることができるのに、眼力が無いのか双眼鏡が悪いのか、一人モタモタしている私です。

ほのかな香りがする梅林の下でのランチタイム。梅入のおにぎりも美味しく、女性会員の方からの差し入れで気分一転。お陰でベニマシコのオス、メスをじっくりと観察が出来、特にオスの美しさには又又、感激です。移動し、しばらく歩いていると美しい鳴き声、初めて聞く。会員の方が「ガビチョウ?」、初めての名前、背後から三~四羽飛んで来たのです。目の周りが白く初めて観る鳥です。薄いガイドブックにはベニマシコもガビチョウも載っておりません。番外では、赤毛色したイタチも観ることが出来、今日一日初めてと感激の嬉しい探鳥会でした。会員方々には大変お世話になりました。又、往復路を運転して下さいました北原様、有難うございました。

【幹事報告】

<認めた鳥> カワウ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジ、クイナ、バン、キジバト、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、カヤクグリ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、カケス、ハシボソカラス、ハシブトカラス、合計 32 種 番外 コジュケイ、ガビチョウ、ソウシチョウ、イタチ、アオダイショウ、

<参加者> 石渡成紀、市村偕子、大久保陸男、大塚利行、大塚雅子、北原建朗、桑森亮、古

賀嗣郎、西巻実、橋本清、間野吉幸、山田哲生、山本貞江、吉田隆行、(担当幹事) 田中功、宮下三禮 参加者 16 名

井頭公園探鳥会

2月3日

大雪で中止しました

担当幹事 猪爪敏夫

低気圧が日本列島の南海上を通過し、シベリア大陸から強い寒気団が降りてくるパターンは、この時期、関東地方に大雪が降る構図である。井頭公園探鳥会は毎年 1~2 月頃開催され、上記のような天気の流れを受けること度々で、私に記憶によると今回で 2 回目の中止である。

毎年非常に人気があり、40 名近い参加者がある探鳥会は他にあまりなく、中止は実に残念というしか言いようがありません。確かに鳥数も多く、それにスコープがいらぬほど近くで観察でき、しかも水鳥と山野鳥が同時に出現する風景は、他には類を見ない探鳥地である。

したがってなんとか行ってみたいと思うのは私ばかりでない筈である。そこで有志を誘ってみると 6 名がすぐ集まった。後日、出かけて、目前でトラツグミをしっかりと観察し、ウップンを晴らしたのである。他にも 5~6 名の方が出かけたと聞いている。

来年は是非実現させたいと思っている。

市民活動フェア in あびこ 2008

「市民活動フェア in あびこ 2008」が 3 月 1 日(土)、2 日(日)にアビスタで開催されました。来場者は 4~5,000 人とのこと。当会が参加した「ステレオ紙芝居」と「食性別に見た手賀沼の水鳥 30 年間の推移:パル展示」にも多くの人が訪れました。

1. 「ステレオ紙芝居」の公演

3 月 1 日フェア開始早々から紙芝居 3 部を公演しました。「ステレオ紙芝居」と称し複数の弁士で語り、参加者にクイズをしてもらいました。2 階第 1 学習室で 10:00 から 12:30 まで 4 回公演し 140 名もの参加がありました。参加者は家族連れ、親子、子供同士、呼び込み問わずと多彩でした。子供達はお土産のカブト虫幼虫に大喜びでした。

2. 「食性別に見た手賀沼の水鳥 30 年間の推移」

当会は他の環境分科会 8 団体と共に工作工芸室にて展示を行いました。手賀沼の水鳥を 8 群に分類し、その概要をグラフを使って A1 判 2 枚で説明。さらに 8 群の代表的な水鳥の写真を A 判 1 枚に載せました。2 日間の工作工芸室への来場者は多彩な 700 名でした。なお、環境分科会では来場者の希望者にお土産を配りました。当会提供のカブト虫幼虫は大人気でした。

マレーシア探鳥紀行

(2008.2/21 - 25)

田丸喜昭

私と家内のメリールイス(以下 ML)は、平成 7 年 8 月(1995 年)に、日本野鳥の会主催マレー半島のマレーシアへの探鳥会の旅に参加してから、13 年ぶりに、マレーシア領ボルネオ島への探鳥会に参加することにした。

前回の旅では、クアラ セレンゴール; マレー語で「雲の上の高原」という標高 1000m ゲンティン高原; 船外機をつけた川舟に分乗し、テンベリン川を 3 時間かけてさかのぼるマレーシア中央部のやや東に位置するタマン ネガラ国立公園(マレー語で国立公園の意味); 再び、川を下りバスで、標高 1,220 - 1,525m の山頂部分のリゾート地フレーザーヒル; 首都クアラランプールを巡る探鳥を楽しんだ。この旅の現地ガイドをつとめた中国系 4 世でマレーシアの鳥に詳しいホック君に、色々教えてもらうことが多かった。彼の名前は OOI CHIN HOCK で、「黄振福」と漢字で書くのだそうだが、我々はホックさんと呼んでいた。彼に、今度ボルネオでのガイドをするなら、それに参加するよと約束していたので、今回はその約束を果たす機会となった。

今回の旅でも、鳥のチェックリストは、自分で事前に作成準備した。ただし、ボルネオに絞った鳥のフィールドガイドは手に入らないので、旧版ではあるが、

A Field Guide to the Birds of South-East Asia

By B. King, M. Woodcock & E.C. Dickinson
Collins, London

BIRDS OF MT. KINABALU

By H. Nakayasu, S. Asama & A. Biun
Bun-ichi Sogo Shuppan

A Guide to the Birds of Thailand

By Boonsong Lekagul & Philip D. Round
Saha Karn Bhaet Co. Ltd.

The Birds of Peninsula Malaysia

By D. Holmes & K. Phillipps
Oxford University Press

世界鳥類和名辞典 大学書林

旅行会社の用意したチェックリスト

などを使用した。今回、現地に到着後、ホックさんに依頼してあった

A Field Guide to the Birds of Boneo, Sumatra, Java
and Bali

By John MacKinnon & Karen Phillipps
Oxford University Press

を受け取り、旅の間と帰国後にこれを使った。

2 月 21 日午後 1 時 30 分に 17 名の参加者が成田を出発し、ボルネオ島コタキナバル空港に、飛行時間 6 時間で現地時間午後 6 時半ごろ定刻到着した。マレーシア時間

は、日本より 1 時間遅れの時差がある。この日、日本は快晴で、出発直後、上空から雪化粧の富士山や南アルプス連峰が遠望できた。コタキナバル到着直前に、飛行機は高度 11,000m で飛行していたが、それよりさらに高くそびえる積乱雲のそばを飛行していると、窓に雪の結晶が付き始めた。外気温が零下 56 度ほどだったので、そのせいだろうと思うが、初めて見た経験だった。後で、マレーシア人に「マレーシアで雪を見た」と話すと、皆、山の雪を想像して、「山に雪はないよ」といっていたが、飛行機の窓の話とわかって、大笑いになった。

ボルネオ島は、日本からの飛行機がフィリピンのマニラ南上空を過ぎ小 1 時間のところが島の一番東部になり、この島には、マレーシアのサバ州とサラワク州、独立国で面積は小さいが石油資源が豊富で豊かなブルネイと、島の南半分ほどのインドネシアのカリマンタン州がある。2 月中旬に雨季が終わるが、午後に 1 時間ほどのスコールがやってくる場合もある。我々の行ったサバ州は多くの中国系住民、その他約 50 もの人種 (50 以上の言語) が住み、多くはキリスト教徒だが、モスLEM教徒も多い。前回のマレー半島では、インド系住民を多く見かけたが、ここでは、数人しか見かけなかった。この州では、宗教はそれほど重要な要素ではない。所々であまり立派でないモスクを見かけ、女性が頭髪を隠す布をまとっているのも見かけた。ラハダトゥ空港には、小さなモスLEM教徒定時祈祷所がもうけてあった。マレー語が使われるが、英語もそれに次ぐ。市街地の看板には、マレー語と中国語の表示が多い。人々は穏やかで、人なつこい笑顔をよく見かけた。

入国管理と税関を通り、出口にホックさんが待っていた。US\$200 をマレーシア通貨に交換して 625.70 リンギットを受け取る。1 リンギットは、約 ¥33 ほどだ。空港は市の中心部に近く、バスでプロムナードホテルに向かう。この旅には、ホックさんのほかに、アンドリュウという現地のガイドが加わる。彼は、日本語がうまく、鳥の名前も、全部日本語でいえた。部屋に入って、成田で買ったバーボンウイスキーを開けようとしたら、ガラス瓶ではなく、初めて経験するプラスチック瓶だったので、いつものように瓶を強く握り締めて、栓を開けるとウイスキーが噴水のように飛び出し周囲の紙を濡らしてしまった。一階の食堂へ行き夕食をとる。飲み物は、デンマーク製の生ビール。

2 月 22 日は、5 時モーニングコール、5 時半朝食、6 時出発で、バスに乗り込む時は日の出前でまだ暗い。途中で、左手に夜明け前の海拔 4,101m のキナバル山が遠望できる。市内のリカス・ベイ海岸のそばにある沼地で探鳥。アオサギ、ムラサキサギ、コサギ、ヨシゴイ、ハチクマ、バン、ネッタiban、クサシギ、カノコバト、カワセミ、ナンヨウショウビン、ツバメ、ヒメコノハドリ、モリツバメ、アカモズ、スズメなどを観察した。オオリュウキュウガモ、セイケイとマミジロクイナも見られたそうだが、私は見なかった。ここでは、時間が早いので、写真は撮らず。今回の旅では、この旅では沢山のアマツバメ類を見たが、動きが早く、特に密林の中などで飛び交うアマツバメ類を瞬時に個々の種を特定することが難しかった。

日が高くなり、市内の入江になっているステラ・ハーバー海岸近くの公園に移動し、細い川沿いを歩き、海岸までの間で探鳥。樹木からアメ色の半透明で 5mm ほどの蟻が沢山首や手に落ちてきて噛み付く。ここでは、アマサギ(この時期、羽は白だけ)、クロサギ、ダイサギ、コサギ、シロハラウミワシ、ダイシャクシギ、チュウシャクシギ、オオソリハシシギ、イソシギ、キアシシギ、ナンヨウショウビン(頭部と背中が緑がかった青、首と腹部は白)、コベニサンショウクイ、キバラタイヨウチョウなどを見る。砂浜には、二百羽ほどのムナグロがたむろしていた。(太字の鳥名は、写真を撮ったもの。以下でも同じ)。

市内の外海に面した砂浜のそばのプリンス・フィリップ公園に移動し探鳥。近くのコンクリート製のアパートのベランダにハヤブサがいた。その他、オオモズサンショウクイ、オニカッコウ(42cm ほどで、♂は体全体が真っ黒で、赤い目、緑のクチバシ)、ミドリカ

ラスモドキ、チビアオバト、カノコバト、コオオハナインコモドキ (BLUE-NAPED PARROT—30cm ほどの大型で、ボルネオ東北部とフィリピンに生息) ブッポウソウ、アカメヒヨドリ、マダラナキサンショウクイ、ツメナガセキレイ、モリツバメ、スズメ、キンバラなどを見る。この場所では、太陽がさんさんと輝き、とても暑かったが、樹木の間が広いので、鳥との距離があり、日向と日陰の光度の差は多かったが、写真が比較的よく撮れた。

11 時半に、バスを止めたあった場所の中華料理店で昼食をとる。熱帯地方らしく、食堂の海岸を臨む側は、戸がなく開放されているので、外から吹き込む風で暑さは感じない。地元産のタイガービールを飲む。椰子の実の頭の部分に穴をあけて、中のジュースを飲む。暑く大汗をかくので、水分の摂取は重要で、皆ペットボトル入りの飲水を携帯している。

空港に戻り、午後 1 時半発の国内線 (小型のジェットプロップ双発のフォッカー機) で、ボルネオの東部にある飛行時間 1 時間のラハダトゥに向かう。飛行機に乗り込む前に、低い上空を、シロガシラトビが飛びすぎていった。到着前に高度が下がってくると、下に見える山々は、椰子油をとるための椰子林で覆われている。国内線なのに、到着後、税関職員が、我々全員の荷物の検査をするということで、荷物を明けて見せた。多分、田舎の空港のこととて、やることがないので、彼の暇つぶしだろうと私は思った。彼は、私の顔を見て、「お前は金持ちだ」という。なぜかと思ったら、私の「金歯」を見て、そう言ったのだとわかる。

空港から、出迎えの車 4 台 (1 台は荷物のみ) に分乗して、約 50km 先にあるタピン自然保護区に向かう。ここで、さらに 2 名のガイドが加わる。15 分ほど舗装道路を走り、左折すると、ここからは、舗装してないデコボコの上り下りの多い林道を目的地まで 1 時間半ほど走らなければならない。道路の両脇は、椰子林が続く。椰子の木は樹齢が 30 年たつと生産力が低下するので、25 年ほどで、若木をその中に植え込み、それが 5 年ほど成長して椰子の実が採れるようになると、老木を伐採するのだそうだ。現在では国際的に椰子油の需要が多く、特に中国やロシア向けが多く、これがボルネオでの一番重要な産業であるとのこと。椰子の実の収穫には人手がかかり、一個が 30kg ほどで重く、収穫した実は、道路まで椰子林の中から運び出さねばならず、また実は収穫後、劣化する前に工場に運び込み搾油しなければならない。この重労働をマレーシア人は好まず、主に賃金の安いインドネシア人労働者によってなされているそうだ。この林道は、公道ではなく、私営で、椰子林の保有者が共同で管理しているとのこと、この行程でも、数箇所のチェックポイントがあり、制服をきたガードマンが、監視小屋に座っていた。料金を徴収しているわけだけでなく、外部の人の通行を制限しているのだろう。1960 年代までは、ここは第一次熱帯雨林 (原生林) であったが、木材が切り倒され、運び出され、そのときの材木搬出に使われたのがこの道路の原点で、その後椰子が植林された第二次林だそうで、現在の所有者は中国人が多いと聞いた。第一次林が伐採された後、表土から雨で古くからの堆積物が洗い流され、現在の地質は、以前とは大きく違っているそうだ。

この周辺は、海に近く海拔 200m 以下だが、道路は上下が多く、濡れた場所では、車が大きくスリップする。所どころ、路上に大きな穴や、溝があり、車の中では、大きく揺れるのでしっかりと捉まっていなければ、座席から飛び出してしまいそうだ。交通量は少ないが、運転には大変なところだ。走行中、道路の脇にいるセキショクヤケイを目撃したが、これは、ボルネオ原産の鳥ではなく、人によって他の島から持ち込まれたのだろうとのことだった。終点近くで、先頭の車が止まった。道路わきの枯れ木にカンムリワシ (Crested serpent-eagle ヲクワシの意) がとまって、こちらを見下ろしている。しばらくすると、飛んで樹林の中に去っていった。この地点で、車を降りて、周囲の探鳥をする。

間もなく、我々が二泊するタピン自然保護区の中のタピン ワイルドライフ リゾートに到着し、部屋が割り当てられ、それぞれの部屋へ行く。ここは保護区に指定され、第一次

林が伐採された後、椰子林とはならず自然に回復した第二次低地熱帯雨林である。一次林伐採のときに切り残された樹木(迷信から、伐採するとタタリがあると思われた種)は樹齢 80 年を越す高木も散見される。タピン自然保護区はボルネオで最大の保護区で、面積は 121,000 ヘクタールに広がっていて、従来は一般の人たちの立ち入りは禁止され、研究者のみが入ることができたが、21 世紀になり、ワイルドライフ リゾートが整備され、一般にも開放された。リゾートの中心にあるサロンから、山に向かって 10 戸のキャビンと谷川沿いの 10 戸のキャビンが並んでいる。この日は、早朝から動き始めたので、私たちは、部屋でしばらくの間、天井に取り付けられた大きな扇風機の下で午睡をとった後、シャワーを浴びて、夕食のためにサロンへ集まった。冷たいタイガービールとカリフォルニア産の白ワインを注文する。私はビール飲みではないが、この旅では水分不足を補うために、セッセと飲んだ。午後 8 時からの探鳥と野生動物観察には、私たちは参加せず、早々に床入りした。ただし、何が原因かわからないが、下痢症状を起こし、夜間に何回か起きなければならなかった。

2月23日は、5時モーニングコール(電話ではなく、ボーイが各キャビンを回って時間を告げる)、5時半朝食、6時出発と強行軍が続く。2台の屋根のないピックアップ バンの荷台に何列かの横長の簡易座席が置かれ、それに分乗し、更に悪路となった狭い林道を、大きく揺られながら鳥を探しながら保護区の奥へとゆっくりと進む。ここは、自然二次林で椰子の木はない。揺れが激しいので、私は、300mm レンズ+2 倍のテレコンバータをつけたカメラに一脚をつけて持っていたが、しっかりと膝の上に抱いていないと、いつ飛び出して行ってしまうかわからない。片手は、車のどこかにしっかりと捉まっていなければならず、鳥が飛ぶと、片手で双眼鏡を持ち、空を見上げるように上を向かなければならない。とても大変な旅だ。所々で止まって、鳥の観察をする。途中でサルの群が樹木の高い場所に群れていたたり、イノシシの親子が道を横切ったりした。

小 1 時間走り、道幅がやや広くなった原生林で、車から降りて探鳥を始める。ゆるい斜面には背の高い樹木がそびえている。タイヨウウチヨウやクモカリドリなどの小鳥が地面に近い低い部分を飛び回る。樹木の間の高さを飛び回る種もあり、高い部分の鳥もいる。木の葉が大きく、鳥に焦点を合わせるのが難しいし、高い部分の鳥は、それこそ体を 90 度も曲げて上を見なければならず、私は、写真は撮ったものの、結果はあまり良くないだろうと思いながらシャッターを切った。こちらが熱帯雨林の暗い日陰の地上から見上げるわけだから、明るい空と暗い樹木の中にある鳥への露出と焦点を合わせるのも大変だ。案の定、帰国してから見た写真は、失敗したものが多かった。木の高いところに鎮座していたオランウータンの写真も、姿が黒く写っているだけだった。ガイドは、プロジェクターで映し出された画面の説明などに使われるレ

レーザー光線を使ったポインター(ここでは緑色の光線)で、動く鳥の位置を観察者に教えていた。また、彼らは、小さい録音機で、鳥の声を流したり、口笛で鳥の鳴き声を出したりして、鳥を呼び寄せていた。ここでの探鳥スタイルは、一地点に長くとどまり、巡ってくる鳥たちを観察するのが主流らしい。

ここで見られた鳥：()内は、私が見なかったか、記憶から消えている鳥。

(ズグロサイホウチョウ)(コクモカリドリ)(タンビムジチメドリ)(エリゲヒヨドリ)
(ボルネオヒメアオヒタキ)(カンムリコゲラ)(カザノウシ)(アカハラクマタカ)
(クリイロバンケンモドキ)(コシラヒゲカンムリアマツバメ)(アカハラコガネゲラ)
(クビワヒロハシ)(ミドリヒメコノハドリ)(コベニサンショウクイ) シキチョウ、
(ロクショウビタキ)(ムナフコウライウグイス)(カワリサンコウチョウ) ムナフクモカリドリ、(キゴシハナドリモドキ)(コゲチャキンバラ) キンバラ、

かなりの鳥の種を見落としているか、記憶に残らなかったのは、今回の旅に望遠鏡を持っていかず(コーワの小型軽量の望遠鏡は持っていったが使用しなかった) 高温多湿で

リュックを背負い、虫に刺されないように、長袖のシャツと上着をまとい、大汗をかいているために精神的に集中できなかったこと、大きな葉の中の暗い藪の中を飛び回る鳥を確実に目視していなかったこと、双眼鏡でも、背の高い木の上層部を見るのに大きく反り返らねばならなかったことが原因と思われる。誰かが、「引越し荷物を担いでサウナ風呂に入っているようだ」と。ただし、探鳥そのものは充分楽しめるものであった。

結局、この地点に約3時間程とどまり探鳥が続けられた。空の状態から、現地のガイドはスコールがやってくることを予測し、朝乗ってきたトラックのうち大きいほうの1台を迎えに呼び戻した。予測どおり雨が降り始め、20数人全員が小型のトラックの助手席や荷台に詰め込まれるように乗り込んだ。私のカメラにはプラスチックの覆いを掛けたが、リュックの中のレインコートと小型の傘は取り出さずに荷台で雨に打たれて帰路についた。悪路でトラックが大きく揺れるたびに、乗客は不安定に揺さぶられ、悲鳴があがり、皆が手すりなどにしがみついていた。リゾート近くまで戻り、小さな集落の広場で、キンパラの群が草地に下りるのを見た。防虫剤は持参したが、使わなかったせい、この朝、腕と足にヒルに食いつかれ、背中の上着にも一匹とまっていた。痛みは感じなかったが、食いつかれた場所は、わずかな出血がなかなか止まらなかった。帰着したときには雨はあがっていたが、びしょ濡れでリゾートの部屋に戻り、着替えをしてから昼食。まずは冷たいタイガービール

昼寝の後、3時から、これまでの鳥合わせをし、その後、リゾート周辺の開けた場所を歩きながら探鳥を夕刻までする。見た鳥は：(クロアカヒロハシ) (ホオアカコバシタイヨウチュウ) (ミドリヒメコノハドリ) (キゴシハナドリモドキ) (ヒイロサンショウクイ) (アカメチャイロヒヨ) (キュウカンチョウ)、**メグロヒヨドリ**、**セアカハナドリ**、その他。

夕食もタイガービールで始まる。午後8時から再び探鳥に出かけるが、私たちはこの日も参加せず。

2月24日も、5時モーニングコール、5時半朝食、6時出発と前日と同じ。何人かの参加者は、この朝の宿にとどまり探鳥には参加せず、あとの人達は、前日と同じように2台のピックアップバンに乗りこみ、同じ林道走るが、距離は前の日の半分ほどの場所で、前日より高木が密集していず、比較的低木の多い藪のようなポイントでトラックを降り探鳥が始まる。2羽の**オナガサイチョウ**が木の高いところで羽の手入れをしている。この鳥の写真も、露出があわなかった。(非常に大型で、体長120cm、

加えて通常の尾から更に突き出した尾の長さ50cm、体全体が濃いこげ茶色。クチバシと冠は白に近い黄色) **ヒメオウチュウ**、**ロクショウビタキ**、**サイチョウ**のつがい(これも大型で、体長110cm、下腹部と尾が白いのを除き、体全体は黒。クチバシの基部に赤味がある黄色、冠の先端が上方に反りあがっている) **カレハゲラ**などを見る。ゆっくりと鳥を観察しながら、宿の方向に坂を下り歩く。この場所は、谷間のように広がっているので、空を飛ぶ鳥の移動が良く見えた。カレハゲラは、私一人が立っている目の前の暗い藪に飛び込んできて、地面に近い細い木の幹でドラミングを始めた。藪の中はとても暗く、写真も形だけしか写っていないが、姿や首の特徴から種を判断した。低い声で連続して鳴く声を、鳥のものと思ったら、ホックさんいわく、「カエルだよ」。

ここでは、(クリチャミヤマテッケイ) (アズキヒロハシ) (クビワヒロハシ) (カザリオウチュウ) (クリチャゲラ) (オオキミミクモカリドリ) (オリーブコバシタイヨウチュウ) (キゴシハナドリ) (ズアカイチャイロチメドリ)なども見られたと記録されている。

リゾートに戻ってくると、私たちのキャビン裏の川に向かって張り出している木に、シロクロサイチョウが2羽とまっていた(体長70cmとやや小型。頭部、首、腹部は白で、

背羽は黒。頭部の毛は毛羽立っている。早い昼食をとっていると、近くの木にコルリを思わせる色違いの綺麗な鳥(頭部から背、尾が青で、喉から腹部が朱色)が一羽飛び回っている。この鳥は、その後建物の中の調理場を飛びぬけて、反対側の木々の中へ移動した。ボルネオだけに住むボルネオヒメヒタキ。

食事の後、荷物を部屋の外に出して1時半にラハダトゥ空港に向け出発。来るときに見た同じ個体と思えるカンムリワシにまた同じ場所に出あった。空港までの中間点ほどの草原地帯のような場所で、先頭の車が止まり、皆で車を降り探鳥する。枯れた高木の先端に非常に小さい(15cm)の当地固有種のボルネオヒメハヤブサがとまり、周囲を睥睨している。草原の枯れ木の上にルリノドハチクイの群がとまり、時々他の木へ群で移動する。道路の反対側の低い木の上にコバシコウが止まっていて、時々近くの他の木へゆっくりと移動する。80cmほどで、頭部、羽、胸は黒、首周り、下腹部と尾は白。太目のクチバシは赤。

舗装された道路に戻り、皆、ほっとする。夕刻の空港の草原にはキンパラと日本と同じスズメが群れて移動していた。アマサギも見られた。私たちを乗せた飛行機は、午後5時半過ぎにコタキナバル空港に到着。荷物を引き取り、国際線カウンターで預ける。成田への出発は0時半ごろだから、6時間ほど時間がある。夕食のため市内への往復は時間的に問題があり、空港内で食事をするようになったが、レストランは早い時間に閉鎖されるため使えず、結局ケンタッキーフライドチキンで済ませることになった。ここでは酒類をおいてないし、外からの持ち込みもできず、多くの人達が残念がった。

食事を終えて外へ出たものの、国際線のセキュリティーチェックと出国管理は10時を回らないと開始されないというので、入口の椅子に座って1時間強待つより仕方がない。周辺には、バーや酒を売る店がまったくない。皆で雑談をしながら時を過ごし、やっと冷房の効いた国際線ロビーの中に入った。私は、相変わらずフィルムを使って写真を撮るので、セキュリティーチェックの際、手荷物から鉛の袋に入れた使用前、使用後のフィルムを出して、検査員に別途申告してチェックを受けねばならず、この旅では、これで4度目になる。この旅では成果は別として150枚程の写真を撮った。私は、まだ使い残しているマレーシア通貨300リンギット余を手元に持っていて、日本に帰って交換できないため、ロビー内の店では、買いたいと思うものはなかった。やっと、缶ビールを売っている店があったが、100リンギット紙幣を出すと釣銭がないというので、他の店で、椰子とマンゴを使った2種の菓子を買い求めて、2缶のビールを21リンギットで買い求めた。残りの金は、機内で、オーデトワレとシガーを求めて使い、残金をユニセフに寄付したいと乗務員に申し出たが、マレーシア航空では、取り扱っていないので、土産として持ち帰った。

出発後、私は、ウイスキーをもらい食事をとり、到着後の成田からの酒酔い運転を気にしながら、もう一杯飲んだ。飛行機の中ではあまり寝ることのできないMLも長い一日の後、よく眠り、私も到着後、酒の残りはまったく感じられないほどによく眠った。早朝の成田到着前にも、富士山と駿河湾が良く展望できた。2月25日午前6時半定刻到着時には、成田の気温は零下2度だった。

ボルネオでの食事は、まずまずだったが、森林が多いせいか、野菜と果物の種類が少なく、出されたトマトやスイカは、我々の感覚からすると、未熟なものに思えた。

帰国後、ホックさんが、皆で探鳥をしている写真を数枚メールで送ってくれた。同行したBさんも、彼がデジカメで撮った鳥、植物、昆虫、人々の写真をCD-ROMに入れて送ってくれた。

私たちは、これまで、外国への探鳥の旅に何回か出かけているが、この10年ほどは、自分たちで計画し、レンタカーを使った二人だけの自由行動のほうが主流だ。行く先々の国により、事情が違うが、安全や衛生面の管理が保障される国々では、見る鳥の種類は少

なくても、じっくりと鳥を見ることができ、より楽しいと思う。今回の旅では、現地で3泊、機内で1泊と短いものだったが、冬の日本から、高温多湿の目的地での探鳥は体力を大いに消耗するので、私たちにとって、これで充分だったような気がする。

鳥 だ よ り

- 01.27 [上沼田] イヅク (1) 低地集水路上を飛行 鈴木静治
- 01.27 [中沼田] ノリ (1) 畑上空を飛翔 鈴木静治
- 01.27 [北新田] ヌヅク (2) 4号排水路で 中野久夫
- 01.28 [北新田] ハヅク (2) 電柱で鳴いていた 中野久夫・金成典知
- 01.31 [北新田] オカカ (1) カカミを捕食 中野久夫・金成典知
- 01.31 [北新田] ノリ (1) 樹上で鳴き声 中野久夫・金成典知
- 02.01 [北新田] フヅクノウ (1) 電柱から飛去 中野久夫
- 02.03 [下沼田] ノリ (1) 雪の電柱上に止まる 鈴木静治
- 02.09 [古戸] ノリ (1) 木の上に止まる 鈴木静治
- 02.09 [岡発戸新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫他参加者約30名
- 02.09 [高野山新田] コカカ (1) 遊歩道の樹上 中野久夫他参加者30名
- 02.09 [高野山新田先手賀沼] ミガ (1) 飛翔 中野久夫他参加者約30名
- 02.10 [酒井根6丁目] ヲノ (1) 11:41、下田の森入口周辺で笹鳴 飯泉仁
- 02.10 [下沼田] フヅクノウ (1) 上空を停飛 鈴木静治
- 02.10 [千間橋] ノリ (1) 上空を飛翔 鈴木静治
- 02.10 [中沼田] イヅク (1) 低地集水路上を飛行 鈴木静治
- 02.13 [光ヶ丘 広池学園] ヤマガラ (1) 11:20、貴賓館の木の枝を鳴きながら移動し、時折花芽を食べていた 飯泉仁
- 02.16 [岡発戸新田] ヲノ (1) 幼鳥、樹上で休息 首藤佑吉
- 02.17 [泉] ヤマガラ (2) 14:23~14:50、鳴きながら移動 飯泉仁・久美子
- 02.17 [片山新田先手賀沼] ヒ (1) ノリガミに追尾されていた 飯泉仁・久美子
- 02.17 [箕輪新田先手賀沼] ミガ (1) 15:14 ~ 15:35、杭に止まり魚を食べていた 飯泉仁・久美子
- 02.20 [北新田] イヅク (1) 2号排水路で 中野久夫
- 02.22 [北新田] ヒ (1) ノリに追われ南へ飛翔 中野久夫
- 03.01 [岡発戸新田] コノ (1) 葦原で採餌 首藤佑吉
- 03.01 [北新田] ヲノ (1) 葦原で初鳴き 中野久夫
- 03.02 [光ヶ丘] ヲノ (1) 11:07、光ヶ丘中央公園入口の草地の中で笹鳴き 飯泉仁
- 03.04 [泉] フヅクノウ (1) 上空を飛翔 首藤美恵子
- 03.04 [岡発戸新田] オカカ (1) 上空を飛翔 首藤佑吉
- 03.05 [布施あけぼの山公園] アトリ (1) 14:25~14:43、北側の斜面林の中を鳴きながら移動 飯泉仁・久美子
- 03.06 [布佐] ノリ (1) 浅間前新田上空を飛ぶ 鈴木静治
- 03.06 [布佐] ヒ (1) 浅間前新田上空を飛ぶ 鈴木静治
- 03.08 [酒井根下田の森] ツミ (1) 10:02、増尾方面から出現し、上空を巡回後青葉台

方向に通過 飯泉仁
 03.09 [片山] 材効(1) 8:51、成鳥雄個
 体：上空から出現し、木の枝に止まり、そ
 の後再度渡去 飯泉仁
 03.09 [つくしヶ丘] ヒ(1) 13:02、上空
 を巡回していた 飯泉仁
 03.09 [布瀬、手賀東小学校と隣接する林と
 畑地] マワ(2) 9:45~10:11、なきながら
 移動 飯泉仁
 03.09 [布瀬、山中下谷地] ノリ(1) 10:25、
 カラスに追尾されながら上空を巡回 飯泉仁
 03.09 [岡発戸新田] ベコシ(1) 初ヤギ
 の花を食べる
 猪爪敏夫・谷山晴男・川田光男・鈴木静治
 03.09 [高野山新田] ヒ(1) 上空を飛
 ぶ
 猪爪敏夫・谷山晴男・川田光男・鈴木静治
 03.09 [下沼田] イサ(1) 低地集水路水
 面上を飛ぶ 鈴木静治
 03.13 [布佐平和台] フウゲンボウ(1) 上空
 を停飛しながら飛ぶ 鈴木静治
 03.16 [千間橋] ハブサ(1) 水面上を飛び

堤防に止まる 鈴木静治

今回の観察者の総投稿件数

飯泉久美子	4
飯泉仁	425
飯泉仁・久美子	78
猪爪敏夫・谷山晴男・川田光男	
鈴木静治	6
熊木雄一	1
首藤美恵子	2
首藤佑吉	15
鈴木静治	27
染谷迪夫・木村稔・桑森亮	
田中功	74
中野久夫	43
中野久夫・金成典知	5
中野久夫他	43
平岡孝	1
総計	695

(諏訪哲夫)

会 員 便 り (ab-birdnet, ab-news より)

真岡公園

2月3日に企画された我孫子野鳥を守る会の井頭公園探鳥会は、降雪のため中止されてしまいました。2月11日(祝)に、メリールイスと二人で出かけ、好天にも恵まれて、楽しく過ごしました。入口駐車場脇のトイレの裏側で、シロハラとルリビタキ♀の出迎えを受けました。池のカモの数は例年より少なめで、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カワウに少数のミコアイサ、ヒドリガモ、カイツブリが浮かんでいましたが、ヨシガモ、カンムリカイツブリ、ハシビロガモ、ホシハジロなどは不在でした。いつも昼食をとるグラウンド近くの林で、トラツグミ2個体に出会い、シロハラは、かなりの数がいるようです。アカハラとの出会いはズートありませんでしたが、つり池から、公園入口に向かう、池とつり池との間を渡る通路付近で一羽を見かけました。ルリビタキは♀の数が多かったですが、♂も一羽最後のほうで見かけました。ピンズイも数グループが林の中を移動していますが、私はこの日ピンズイの写真を一番多く撮ったと思います。なぜなら、この鳥は、かなり友好的で、一番近くに近寄ってきたのは、約3m程まででした。ルリビタキの写真も結構撮りましたが、日陰、日向を移動するので、距離は近かったですが、写真のできればは、さていかに

(02/12 田丸喜昭)

北新田

- ・タゲリは青山水門付近の畑やコルブ場、西隣の弁天下との境界付近の畑にいました。
- ・オオジュリンが草の上に出てくるようになり、見やすくなりました。

(02/20 中野久夫)

- ・今朝ウグイスの初音が聞かれました。越流堤横のヨシ原でかほそい声でホケキョと鳴いていました。ウグイス1
- ・2月29日から2号排水路がせき止められて貯水が始まり、水位が上がってきました。
(03/01 中野久夫)
- ・14日から利根川河川敷の柳上でハシボソガラスが巣作りをはじめました。
(03/17 中野久夫)
- ・コチドリの今年の初認は3/23(昨年も3/23)、ツバメの初認は3/28(昨年は3/27)でした。
(04/02 中野久夫)

ヤマセミ

今月の2日と3日にレンジャクを求めて山中湖へ行ったのですが、レンジャクは姿をみせません。今年はどこへ行ったのやら？

そこで、方向転換、山中湖の宿を基点としてヤマセミを求めて丹沢へ、ハギマシコを求めて城山湖へそれぞれ向かいました。これが当たって大成功。ヤマセミとハギマシコを沢山撮ることができました。ただ、ハギマシコはチョロチョロ動き回ることと、天候が雨模様のためボヤッとして、写りはよくありませんでした。再度挑戦しようかな？と思っています。ご一緒しませんか。
(03/05 大久保陸男)

ハクセキレイの囀

我孫子駅南口ロータリーの中央に、あまり立派でない、コナラらしい木があり、枯れ葉が落ちずに残っています。これにハクセキレイが囀しているのには気づいていたのですが、16日の日曜日の20時すぎに数えることができました。いちどほとんどが飛び立ってコンビニエンスストアの屋根におりた後、木には近くの常緑樹も含めおそらく10~20羽は残っているという状況から、徐々に木に戻ってくるところを数えたところ、108羽くらいまで数えたので、合計すると、120羽はいたと思いますケヤキやセンダンなどが次々と葉を落としてしまいましたが、葉の残っている木を探してしぶとく囀っているのですね。

(03/17 平岡孝)

湖北台ツバメ初認

きょう、湖北台でツバメを見ました。今年の湖北台初認のツバメです。朝10時30分ころ、スーパーで買い物した帰り道、賑やかな鳴き声に振り返ったら、商店街の軒先をぐるぐる飛びまわっていました。湖北台での初認は2000年3月31日がいままで最も早い記録でしたから、今年の3月29日は私にとって湖北台での新記録になりました。(03/29 赤尾完)

クイナ

今日は雨模様で定例探鳥会は中止になりましたが、北柏ふれあい公園でのアリスイは空振りとなり、その後、親水公園遊歩道に出向きました。

鈴木さんからクイナを見たとの話を聞き、出会いと求めてのものです。

一週間前にも同じ場所の葎原中に姿を見たのですが、そこに出向くと、釣堀側の栈橋にクイナがいて、周辺を移動しつつ餌を探しています。遊歩道近傍の葎原でザリガニを捕獲し、葎原中の丸太の切れ端に乗って食べようとするのですがうまくいきません。丸太から足を滑らしてはザリガニを突いては落とし、またくわえまた落としの繰り返しで、最後に水中に落ちてしまいました。その後、そのザリガニを諦めて再度餌探しをしていました。

直ぐ近くでじっくりクイナを観察する機会を得ましたが、色合いが図鑑にあるようなすっきりしたキレイな姿で嘴はほとんど赤い状態でした。繁殖色なのでしょうか。

その後、付近を歩きましたが、アカハラを見ました。昨年もそうでしたが、この時期は移動時なのか真冬よりもアカハラを見易いように感じます。(04/13 桑森亮)

3月幹事会報告

日時 3月9日(日) 13:30~17:00

場所 アピスタ 工芸工作室

議題

1. 20年度定期総会議案について
19年度活動報告及び決算案
20年度事業計画及び予算案
2. 会報202号の記載記事について
会報202号に記載する記事を検討した。(行事予定、実施工事の感想文、報告など)
3. 報告事項
「市民活動フェア」について、3/1,2の2日間にわたり開催され、パネル展示ブースに約600名、紙芝居上演に約140名、クイズ参加約80名が訪れ、盛況に終了。
「20年度の手賀沼流域フォーラム」について、運営委員会から当会に市民探鳥会の要請有り、受ける方向で決定。パネル展示は今年同様実施。
5/11(日)予定の「Enjoy 手賀沼 市民探鳥会」はH19年度同様に実施予定。
「地域ポータルサイト」への当会の登録要請について、登録することで了承。
当会HP作業の進捗状況 現在作業中で今年の8月には開設予定

20年度会費納入のお願い

本年度の会費納入時期がきました。郵便局の払込用紙を同封しましたので早期にお振込ください。尚、既にお支払いの方はこの用紙を破棄してください。

年会費 2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円 家族会員無料)

新会員紹介

鈴木裕爾・鈴木幸子(東京都葛飾区)

ほーほーどり No202 2008年(5~6月号)

発行 2008年5月1日

発行人 我孫子野鳥を守る会 会長 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04 7182 3972

振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料)